



2022年10月号

ウトナイ湖通信

No.221

ウトナイ湖野生鳥獣保護センター 発行

トピックス

ウトナイ湖野生鳥獣保護センター20周年記念イベントを開催

2002年7月に開設した当センターは、今年の7月に20周年を迎えることができました。ウトナイ湖通信 7月号でお知らせした各種記念イベントには、多くの方にご参加いただきました。誠にありがとうございました。本号では、その様子を写真とともに、ご報告させていただきます。

セミナー「ウトナイ湖を取巻く環境の変化」

環境省北海道地方環境事務所の若松氏からは傷病鳥獣救護の現場について、苫小牧市美術博物館の江崎氏からはウトナイ湖の成り立ちと自然環境の変化について講演いただきました。講演後は参加者の皆さんに20周年特別記念の楽箱を進呈しました。



夏休み子どもスペシャル 野生動物を守る！環境省と獣医師のお仕事体験

参加者は、前半に環境省から自然保護の話聞いた後、生態系を支えるための「ハチのホテル」を制作。後半は当センターの獣医師から傷病鳥獣救護活動の話聞き、傷病鳥への給餌の様子を見学し、最後に傷病鳥用のケージを作りました。



ポンポンづくり体験

毛糸を束ねたポンポン作りは、申込み初日に定員に達しました。冬のシマエナガのように、まん丸でふわふわな作品が完成しました。



アイロンピース制作

年に数回行なっている本イベント。20周年記念の今回は、ウトナイ湖の野鳥でも特に人気のあるシマエナガを制作しました。



バックヤードツアー

一般公開していない当センターの傷病鳥獣救護室をご案内し、参加者にリアルな野生鳥獣救護の現場をご覧いただきました。



ウトナイ湖野生鳥獣保護センター開設20周年記念展示

展示室は、苫小牧市美術博物館の協力により、ウトナイ湖に馴染みのある野鳥の剥製が並びました。またウトナイ湖や当センターの年表、20年間の活動紹介、日本野鳥の会が実施してきたウトナイ湖の保全のための鳥類調査報告等を掲示しました。他にも、夏休み子どもスペシャル・セルフバージョンのクイズや、当センターのボランティア奥山博美氏による野鳥や動植物の点描画展も開催し、会場が賑わいました。



自然情報収集調査 日記 2022年9月10日(土)10:00~11:30

レンジャー、当センター登録ボランティアの計4名で実施しました。天気は快晴、調査メンバーは湖岸沿いでオジロワシやダイサギを発見。湖岸沿いの木道付近に見られるズミやガガイモなどの実を観察後、林に入った途端に尋常ではない数の「カ」の集団に追いかけられました。それに耐えながらツリフネソウなどの花を確認し、草地に抜けるとミドリヒョウモンやアキアカネなどの昆虫が見られました。



木道脇の植物の花や実を観察する調査メンバー



調査中帽子にとまったのは赤とんぼの仲間のノシメトンボ



木の中の幼虫だけではなく、木の実も好むアカゲラ



木道脇などに見られたイシミカワの実。葉が三角形で特徴的。

ウトナイ湖全域水鳥カウント調査 日記 2022年9月11日(日)15:00~16:00

レンジャー、ウトナイ湖サンクチュアリサポーターの計3名で、3箇所に分かれて、ウトナイ湖にいる水辺の野鳥を調査しました。西側からは、怪我をして渡りをしないオオハクチョウの成鳥1羽と、幼鳥1羽の様子を確認。湖中央部ではミサゴ2羽がホバリングした後、湖にダイブして魚を捕獲する行動を確認。東側では、カムリカイツブリが11羽見られ、全域で11種46羽を記録しました。



西部の調査ポイントの1箇所、ハノキのテラスの様子。



今回3羽確認されたカワセミ。(写真は別日に杉田氏が撮影)



8羽確認されたダイサギ。(写真は別日に撮影)

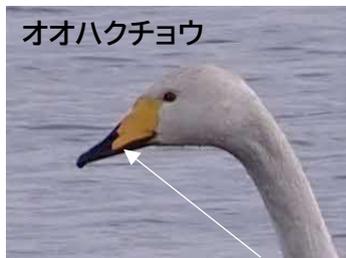


湖上でホバリングしながら魚を探していたミサゴ。

10月の自然予報

秋の渡り中のハクチョウ類が観察されるでしょう♪

例年10月になると、シベリアなどの北から渡ってきたコハクチョウやオオハクチョウが見られるようになります。越冬地の本州に渡る途中にウトナイ湖を中継地として利用します。



オオハクチョウ

嘴の半分以上が黄色い

黄色い箇所が尖る



コハクチョウ

嘴の黄色と黒が半々

黄色い箇所が尖らない

レンジャーによる秋の飛来確認日 (過去3年間)

	オオハク チョウ	コハク チョウ
2021年	10/8	10/3
2020年	10/11	10/7
2019年	10/11	10/4

紅葉が楽しめる季節です♪

ウトナイ湖の林の木々が紅葉すると、より一層秋の自然観察が魅力的になります。その中の数種類をご紹介します。美しすぎて触ってしまいそうですが、ウルシもあるので、ご注意ください。



ツタ

巻きつくツル性の植物。よく似たツタウルシに注意。☹



ヤマウルシ

羽状の葉をつける。ぶら下がった実は野鳥に人気。☹



ヤマモミジ

ウトナイ湖の樹木の中でも、紅葉した色の鮮やかさは格別。☹

【オオバン】

全長：39cm、雌雄同色。全体が黒く、嘴と額が白い。

湖沼やその周辺にすむ。冬は本州以南で越冬するものが多い。ウトナイ湖では特に、秋に多く見られる。クイナ科の一種であるものの、歩くより湖を泳いでいる姿が見られ、頻りに潜り採食する。



*ウトナイ湖に関するクイズ
 毎回、その月にあわせたテーマで出題しています。
 あなたもウトナイ博士になれる？かも。

Q. 木の実がなる季節。ウトナイ湖の自然観察路で野鳥や昆虫に人気があるものの、毒性があるのは次のうちどれでしょう？



(あ)マユミ



(い)チョウセンゴミシ



(う)スミ

答えは最後のページです。

傷病鳥獣ルームから



当センターでは、国指定ウトナイ湖鳥獣保護区とその周辺（苫小牧市行政区域内）において人為的な原因で保護された傷病鳥獣の救護・リハビリを行っています。その活動の一端を皆さんに知っていただくコーナーとして、ここでご紹介いたします。

スズメ

体重 21g



体中に粘着剤が付着しています



4日後の様子

原因：ネズミ捕り

- 9月16日 市内にある会社の倉庫内のネズミ捕りにひっかかり動けずにいるところを発見され、同日中に保護センターに搬送される。
初診にて、体の広範囲に粘着剤が付着しているのを確認。片栗粉をまぶし、粘着剤を除去。容体は安定。
- 9月17日 2日目も引き続き、粘着剤除去処置を行う。
- 9月19日 4日目、除去しきれなかった粘着剤を羽毛ごと一部除去。飛翔力も増し、順調に経過。
- 9月21日 6日目、リリースに至る。

リリース

スズメ（スズメ目 スズメ科）

全長14cm。市街地や住宅地、農耕地などの、人の住む環境で最も身近に存在している種です。北海道でも1年を通じ観察することができます。雌雄同色で、全体的に茶色い体に黒い縦斑があります。今回保護された個体は、今年ふ化した幼鳥で、全体的に色が淡く、くちばしの基部も黄色さが残っています。

●お気軽ガイドウォーク

10/9 (日) 10:30~11:30
定員 10 名程度・申込不要・直接会場へ



●第 3 回野生動物に学ぶ救護セミナー

「とことん！コウモリ！」 講師：中島宏章氏
10/30 (日) 13:00~15:00 定員：30 組 (申込先着順)
申込：10/1~29 の 17 時までに電話でセンターへ



●ボランティア体験講座 秋の自然情報収集調査体験

10/29 (土) 9:30~12:00
定員：高校生以上 10 名 (申込先着順)
申込：10/1~28 の 17 時までに電話でセンターへ



●アイロンビーズで野鳥を作ろう~ハクチョウ編~

10/29 (土) ①11:00~ ②14:00~
定員：各回 4 組 (申込先着順) ※1 組 2 つまで作れます
申込：10/1~28 の 17 時までに電話でセンターへ



ウトナイ湖・渡り鳥フェスティバル 10月15日(土)・16日(日)

ウトナイ湖に多くの渡り鳥が見られる時期に合わせて開催します。飛来した渡り鳥の観察などのイベントに参加して、秋のウトナイ湖を楽しみませんか？

①【セミナー 渡り鳥とプラゴミ問題~身近にできる自然保護~】 10月15日(土) 10:00~12:00

- ・日本野鳥の会：海洋プラスチックごみの海鳥への影響/ゴミの現状/暮らしの中で、できる対策について
- ・野生鳥獣保護センター獣医師：地元での海岸清掃や傷病鳥獣の釣り針被害等について
- ・苫小牧市環境衛生部：053 (ゼロゴミシティ) の苫小牧市のゴミ事業について

■定員：30 名 (申込先着順)



②【渡り鳥ウォッチング~アプリを使って識別や記録をしよう~】 10月15日(土) 13:30~15:30

湖岸から、湖にいる秋の渡り鳥ハクチョウ類、ガン類、カモ類などを観察します。貸出しのタブレットを使いながら、「Merlin」と「eBird」という野鳥観察アプリで、野鳥の識別などをお楽しみいただけます。■定員：10 組 25 名 (申込先着順)



③【レンジャーと一緒に秋の生きもの図鑑をつくろう】 10月16日(日) 10:30~12:00

レンジャーや当センターのボランティアと一緒に、自然観察路で秋にウトナイ湖で見られる野鳥、植物、昆虫などを探して、ハンディサイズの図鑑を作成しましょう。

■定員：中学生以下とその保護者 20 名 (申込先着順)



④【お気軽秋の水鳥ガイドウォーク】 10月16日(日) 13:30~14:30

レンジャーや当センターのボランティアが 40 分程、屋外でウトナイ湖の自然を案内するガイドウォークです。渡り鳥の飛来シーズンに合わせて、湖岸でハクチョウ類、ガン類、カモ類などの観察を予定しています。◆定員：20 名程度 (先着順) ◆事前申込不要、直接会場へ。

⑤【マガンのカウント体験】 10月15日(土)~16日(日) 10:00~16:00

館内に設置した、秋に渡ってくるマガンの群れが描かれたパネルを見ながら、野鳥の数を数える数取り器を使って、カウント体験をしていただけます。参加いただいた方には参加賞をご用意しています。

◆定員：なし ◆事前申込不要、直接会場へ。

申込み：②は、10/1~10/13 までに、①・③は 10/1~10/14 までに、電話で当センターへ



◆ウトナイ湖◆

周囲約 9km、面積約 275ha、平均水深約 0.6m の淡水湖です。鳥類はこれまでに約 270 種が確認され、ガン・カモ・ハクチョウなどの渡り鳥にとって重要な中継地、越冬地となっています。このためウトナイ湖は、国指定鳥獣保護区特別保護地区、ラムサール条約湿地、東アジア・オーストラリア地域渡り性水鳥重要生息地ネットワークに指定、登録されています。

◆ウトナイ湖野生鳥獣保護センター◆

環境省が「野生鳥獣との共生環境整備事業」により建設し、苫小牧市と共同管理する施設です。また、苫小牧市が業務の一部を(公財)日本野鳥の会に委託しています。

TEL. 0144-58-2231 / FAX. 0144-51-8600

〒059-1365 苫小牧市植苗 156-26 / 入館無料 / 開館時間：午前 9 時~午後 5 時

公式 SNS にて
情報を発信しています。ぜひ、ご覧ください。



Instagram



facebook



Twitter



答え：(あ) マユミ

マユミの実を誤食すると、吐き気や下痢などの症状が出るとされています。毒のイメージに反して、実を包む外皮の鮮やかな色や変わった形が美しく、また実を狙うメジロ等の野鳥も見られるため、秋の自然観察にはなくてはならない樹木です。